

編 集 後 記

3月になると大学の卒業式の日にはK先生が仰った言葉を思い出す。それは卒業式後の謝恩会のこと。先生に言われた言葉は「10年後には一緒に仕事をしよう」である。あれから約10年。卒業して雪氷の世界から遠ざかる人が多い中、私はありがたいことに雪に関する仕事を続けている。大学の先生方とは調査研究だけでなく、北信越支部や昨年の雪氷学会全国大会で一緒にさせていただいたり、少しずつではあるが一緒に仕事ができるようになったことを嬉しく思っている。

最近、雪のイベントで講師をつとめる機会をいただくことがある。積雪観察会で雪の秘密を解説すると、子供も大人も「目からうろこ」のようで、雪氷の魅力を普及する楽しさと喜びを感じている。これも、雪氷を教わった先生方への恩返しの一つかなーと思っている。今後

は、積雪の観察ができる学生を育てるなど、雪氷の教育・普及活動のお手伝いをさせていただければと野望を抱いている。

先日、大学で一緒に雪氷学を学び今は雪氷の世界から離れている友人に会った。卒業した後も「雪氷」を引き続き購読しているとのことであつた。学術的な内容はよくわからないが、知っている人の名前を見ると懐かしく嬉しいと言っていた。学術論文だけでなく、写真館や談話室、質問箱、滞在記など様々な内容が盛り込まれていることも「雪氷」の魅力だと思う。大学を卒業して雪氷に関係ない仕事に就くと学会会員をやめてしまう方もいるかと思うが、自分なりの楽しみを持ちながら、ぜひ「雪氷」を購読し続けていただきたいと願っている。

(木戸瑞佳)